

# こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2014  
8月  
No.110

特集 P2・3

台風9号  
豪雨災害  
から5年

平常時の取り組みが  
災害時に生きる



ひ孫と  
いっしょ

シリーズ109

一宮町 生栖

世良 幸さん(85歳)

濱路さん(82歳)

○啓太くん(5歳)

世良 智美さん

■長男

台風9号  
豪雨災害  
から5年

# 平常時の取り組みが 災害時に生きる

平成21年8月、宍粟市に大きな被害をもたらした「台風9号豪雨災害」は、市民の大切な日々の暮らしを奪い、美しかった故郷を大きく傷つけました。あれから5年、この経験を教訓に安全・安心なまちをつくるため、自助・共助による取り組みが市内各地で進められています。

今月号では、当時の経験や教訓をもう一度振り返るとともに、平時から私たちに出来る取り組みについてあらためて考えます。

## 復旧支援に ボランティアの汗

宍粟市災害ボランティアセンター（平成21年8月11日～25日）に、「何でもやるでー」「どこでも行くよー」と応援に駆けつけたボランティアのみなさん。

被災後、宍粟市内はもとより、県内外から多くの方が訪れ、猛暑の中、被災家屋内に残された家財の搬出や床下に溜まった泥の運び出しなど、献身的に汗を流す姿が見られました。

そして、活動を終え疲れている

はずですが、気持ちよい笑顔で帰って行かれるボランティアの姿に感動する毎日でした。

この豪雨災害から、「助けあい」「お互いさま」の心に、人のもつ力の大きさを知り、支えあうことの素晴らしさや大切さを目の当たりにしました。

## 1,712人の ボランティアに感謝

この期間中に活動されたボランティアは、1,712人でした。

ボランティアセンターには、「ありがとう」「助かった」の声がた



災害ボランティア感謝の集い2010  
(H22.8.22 宍粟市社協本部)

くさん寄せられ、それは、センターを運営する社協（以下「本会」）職員の大きな励みとなりました。

豪雨災害から一年が経過し、被災された方々から「どこかでボランティアのみなさんにお礼を述べたい」という申し出があり、『災害ボランティア感謝の集い2010』を開催しました。

当日は、被災されたみなさんをはじめ、あの時来ていただいたボランティアのみなさんにお越しいただき、参加者同士で握手をし、お互いにあいさつを交わされるなどお礼を述べあう姿が見られ、と

市内外から駆けつけたボランティアによる復旧支援活動  
つなぐの強さや大切さを強く感じました





日頃から危機管理意識を持ち、十分な「備え」をしておくことです  
(H25.12.8 災害ボランティアセンター設置訓練)

## 豪雨災害での経験や 教訓を生かすために

ても意義のある集いとなりました。

豪雨災害での経験や教訓を今後どのように生かしていくのか。

これは、本会の大きな課題となりましたが、この5年間で少しずつではありますが、教訓を生かした取り組みを実践しています。

その一つとして、『緊急時、動ける社協に』を目標に掲げた、「災害時対応訓練(シミュレーション)

ン」を実施しています。

25年度は、本会が策定した「災害救援ボランティア活動支援マニュアル」に沿って、模擬の災害ボランティアセンターを山崎支部駐車場に設置し、介護職員がボランティア役を演じ受付業務のシミュレーションを行いました。

今年度も訓練の実施(12月)に向けて、訓練テーマや災害状況の設定、センターの設置場所、参集範囲など検討しており、計画的に準備を進めています。

## 平常時の見守りが 災害時にも役立つ

昨年度本会では、「見守り活動リーフレット」を作成し、自治会の福祉関係者に配布しています。



見守り活動リーフレット

その内容は、見守りを自治会全体で進めていくために、自治会の中に「見守り活動を担う組織」福祉連絡会をつくり、活動の輪を広げるといったものです。

ご近所で気になる方や心配な方

## 受講生募集

### 平成26年度 災害ボランティア養成講座 ～災害への備えについて学ぶ～

災害時のボランティア活動について、具体的な内容やその意義について学ぶとともに、支援者として何ができるのかを一緒に考えませんか。

- と き ①9月20日(土)  
②10月9日(木)  
③10月25日(土)  
午前9時30分～12時…①③  
午前9時30分～午後5時…②

- ところ ①一宮保健福祉センター  
②北淡震災記念公園(視察研修)  
③穴栗防災センター

対象者 災害ボランティアや災害支援活動に関心のある方(20歳以上)

定 員 20名

受講料 無料 ※視察研修の昼食代は実費負担

申込み 穴栗市社協本部

TEL 72-8787 FAX 72-8788

(要援護者)の情報交換、訪問活動(傾聴や話し相手)、交流活動(ふれあい喫茶等)等、さまざまな取り組みが見守りにつながります。見守り活動を進めることが、結果として災害時においても、要援護者をいち早く救援でき、安心して暮らせる地域づくりにつながるということ、住民だれもの共通認識にしておくことが必要です。みなさんの地域でも、平常時からできること「備え」についてぜひ考えてください。

(千種支部 波多野好則)



顔の見える関係づくりが災害時の支えあいや助け合いに生きてきます(鶴木ふれあいサロン)

や  
まさき

## 願いが叶いますように…

やまさき子育てサロン

7月18日(金)、大栗防災センターで「やまさき子育てサロン」を開催しました。

今月のサロンは「七夕の笹飾り」です。

当日は、12組の親子が参加し、子どもたちは、お母さんと一緒にハサミで折り紙をチョキチョキ、のりでペタペタ可愛い飾りが出来上がりました。

「トイレでしっこができますように」「家族みんなが健康でありますように」と、想いを込めて書いた短冊を一つ一つ願いを込めて竹笹に飾りました。

その周りを「きれいなあ」と楽しそうに走る子どもたち。

「お母さん同士も楽しそうで、見ていて嬉しいです」と託児ボランティアアバンビ代表の松下由美子さん。

子育て中のお母さん



「きれいに結んでね～」

(山崎支部 横山洋子)

子どもたちが気軽に集まって、みんなが笑顔になれる子育てサロン。ボランティアグループ「いずみ会」のみなさんの手作りおやつも好評です。サロンは毎月第三金曜日です。

みなさん。ぜひ遊びにきて下さいね。



い  
ちのみや

## ぼちぼち、しよってですか!?

須行名の「ぼちぼち会」

「昨日は誰とも話さなかった…ふれあい喫茶の他にも、集まる場があったらなあ…」

このひとり暮らし高齢者の声にこたえようとの思いで、須行名ふれあい喫茶のボランティアから「ぼちぼち会」を行っています。

7月31日(木)、須行名公民館に13人が集まり、こ

の日はお茶を飲んだりお手玉をして和気あいあいと過ごされました。

「みんなと話すのが楽しめて来てるよ」と参加者の安黒カネ子さん。

ぼちぼち会では、参加者のペースで自由に過ごすができ、家に閉じこもりがちな高齢者がいきいきとされています。



「子どもの頃を思い出すよ」「え、何年前?あはは」

そして、ぼちぼち会の前日には声かけを、参加されなかった方へは安否確認をされ、高齢者の見守り活動にもつながっています。

文字通り、ぼちぼち…少しずつ、今後も参加者みなさんの興味や関心に合わせた活動を広げていって下さいね。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

## 楽しいこともみんなで参加

### 日ノ原ふれあい喫茶

7月13日(日)、日ノ原自治会でふれあい喫茶が行われました。

日ノ原は17世帯、人口35人程の小さな集落です。ふれあい喫茶はそんな中で、みんなが顔を合わせる大切なコミュニケーションの場となっています。

この日は朝から雨が降り続く中、18名が足を運び、ケーキを食べながらちよつと豪華な喫茶を楽しみました。



「おおぜいの顔見るんがええんやで」(日ノ原消防詰所)

と、福祉委員の阪口恵美子さん。

「今日はマツにいさん、来てないなあ」「朝、歩きよったん見たで」と、地域の様子がすぐわかるまともりのよさは、日ノ原自治会ならではです。

メニューの工夫からも参加者への心配りが感じられ、自治会行事にも全員参加で取り組まれています。

これからも、みんなが参加しやすいようにという思いを大切にしながら、日ノ原ならではの取り組みにして下さい。

(波賀支部 平有利菜)

## 体験して、いろいろ学んだよ

### まなびつとクラブが福祉体験

7月31日(木)、千種保健福祉センターで開催のサマーボランティア体験教室に「まなびつとクラブ」の小学生16人が参加しました。

「まなびつと」は、「学ぶ」と「人」から名付けられ、千種町内の小学3年生から6年生を対象にした、体験を通じて人権の大切さを学ぶ講座の名称です。

当日は車いす体験とユニバーサルデザイン体験を行い、車いす体験では、二人一組になり、千種保健福祉センターからAコープまでの道のりを実際に車いすに乗って出かけました。

「坂になると、押すのが大変やった」「いつもならすぐとれるお菓子に手が届かなかった」など段差や視線の違いに気づいた児童もいました。

また、ユニバーサルデ



暑い中、声をかけながら頑張りました(エーガイヤちくさ)

ザイン体験では「このホッチキス使いやすい」「缶ビールには上に点字がある」などと気づいた児童もいました。

(千種支部 小原志のぶ)

は  
が

ち  
くさ

善意銀行預託金を活用

## 117グループへ助成

### 宍粟市社協 ボランティア活動 助成金



この助成金は、宍粟市内で活動しているボランティアグループが、安定的かつ継続的に活動ができるよう支援するもので、今年は117グループから申請がありました。

7月14日(月)に助成金交付審査会が行われ、申請された全グループに交付が決定(上限15,000円)。合計175万5千円を助成しました。

なお、この助成金の財源は、市民のみなさんからお寄せいただいた善意銀行預託金を活用しています。

ボランティア  
センター日誌

配食調理体験

「これからの勉強に生かしたい」



テーブルいっぱいのお弁当箱を並べるのも貴重な体験です

### 7月28日(月) 宍粟防災センター

山崎高校生活創造科2年生で調理を専攻する7名が、配食サービスのお弁当づくりに挑戦しました。

この日のお弁当は92食。こんなにたくさん調理するのは初めてという生徒たちは、ボランティアや職員の指導を受けながら下準備や配膳を行いました。

体験を終えた生徒からは「皆さんにおいしく食べてほしい」「もっと技術を磨きたい」と、感想が届きました。

今日の経験を、今後の勉強に生かしてくださいね。

(山崎支部 草田希望)

## 暑~い 夏休み!! 市内のイベントでボランティアが大活躍!



### 7月19日(土) ちくさボランティアまつり

千種保健福祉センターで「第14回ちくさボランティアまつり」を開催しました。約200名の参加があり、喫茶やゲーム・もの作りコーナーやバザーなど盛りたくさんの内容で楽しみました。

### 7月27日(日) メイプル夏まつり

メイプル福祉センターで「メイプル夏まつり」を開催しました。約400名の参加があり、バルーンパフォーマンスをはじめ夜店コーナー也大賑わいでした。最後は恒例の花火で夏の夜を楽しみました。



### 8月3日(日) やすらぎ福祉フェスタ2014

一宮保健福祉センターで「やすらぎ福祉フェスタ2014」を開催しました。のべ約200名の参加があり、午前はボランティア体験やミニ健診、縁日コーナーで賑わいました。午後からは記念講演会「老い支度講座」で認知症への備えや上手に老いるコツについて学びました。

